

# MM I セミコンダクター株式会社

第2期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

貸借対照表

損益計算書

## 貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	3,874	流動負債	6,922
現金及び預金	848	買掛金	2,271
売掛金	384	短期借入金	3,950
商品及び製品	205	未払金	196
仕掛品	796	未払費用	240
原材料及び貯蔵品	608	未払法人税等	2
前払費用	55	賞与引当金	230
短期貸付金	0	その他	31
未収入金	676	固定負債	563
その他	298	繰延税金負債	145
固定資産	2,467	その他	417
(有形固定資産)	2,293	負債合計	7,485
建物及び構築物	6,017	純 資 産 の 部	
機械及び装置	4,219	株主資本	△1,144
車両運搬具	0	資本金	50
工具、器具及び備品	419	資本剰余金	50
土地	0	その他資本剰余金	50
建設仮勘定	1,590	利益剰余金	△1,244
減価償却累計額	△9,955	その他利益剰余金	△1,244
(無形固定資産)	159	純資産合計	△1,144
ソフトウェア	159	負債純資産合計	6,341
(投資その他の資産)	13		
長期前払費用	9		
その他の投資	4		
資産合計	6,341		

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

( 2022年 4月 1日から  
2023年 3月31日まで )

(単位：百万円)

科 目	金	額
売上高		3,357
売上原価		4,946
販売費及び一般管理費		△1,589
営業外収益		1,169
営業外費用		△2,759
受取利息及び配当金	0	
為替差益	0	
その他	18	18
営業外費用	9	
支払利息	22	31
その他		△2,772
特別利益		
特別利益	222	222
特別損失		
特別損失	0	0
税引前当期純損失		△2,550
法人税、住民税及び事業税	△392	
法人税等調整額	△488	△880
当期純損失		△1,669

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

（2022年4月1日から  
2023年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株 主 資 本					株 主 資 本 計	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金			
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 合 計	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 計 合		
当 期 首 残 高	50	50	50	425	425	525	525
事 業 年 度 中 の 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当							
当 期 純 損 失				△1,669	△1,669	△1,669	△1,669
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 事 業 年 度 中 の 変 動 額 (純 額)							
事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	—	—	—	△1,669	△1,669	△1,669	△1,669
当 期 末 残 高	50	50	50	△1,244	△1,244	△1,144	△1,144

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

- ・市場価格のない株式等以外のもの…事業年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
- ・市場価格のない株式等……………移動平均法に基づく原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

- ・商品……………総平均法
- ・製品、仕掛品……………総平均法
- ・原材料及び貯蔵品……………主として総平均法

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

資産の種類、構造、用途別に見積られる耐用年数に基づく定額法によっております。

建物及び構築物	5 ～ 50 年
機械及び装置	4 ～ 10 年
工具、器具及び備品	2 ～ 15 年

また、少額の減価償却資産（取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産）については、事業年度ごとに一括して3年間で均等償却しております。

##### ② 無形固定資産（リース資産を除く）

資産の種類、用途別に見積られる耐用年数に基づく定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア	5 年
-------------	-----

##### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

#### (4) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

#### (5) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### ② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支出に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に対応する金額を引当計上しております。

#### (6) 収益及び費用の計上基準

商品の販売は、顧客との契約に基づき、物品の支配が顧客に移転することにより履行義務が充足した時点で認識しております。物品の支配の移転時期は、個々の販売契約の条件によって異なります。ほとんどの場合では、物品が顧客の倉庫に引き渡された時点で移転します。ただし、一部の 경우에는港において荷積みした時点で移転します。

2. 収益認識に関する注記

「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「収益及び費用計上基準」に記載のとおりであります。

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	1株	－株	－株	1株

(2) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

該当事項はありません。

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当効力の発生が翌事業年度になるもの

該当事項はありません。